

【給食協会賞】給食で変わる思い

新田小学校 杉浦 イアン

僕はこの6年でかなりいろいろなところが変わりました。なかでも特に変わったところは給食を食べる量です。4年生の担任の先生のおかげで好ききらいをすることや給食を残すことは良くないことだと気づき、それ以来給食を残さず食べるようにしています。

そして僕には忘れられない給食がふたつあります。

ひとつめはビビンバです。新学期の給食が始まると三日間は「新学期スタートダッシュメニュー」で大人気のおかずやデザートが登場します。そのときによく出るのがビビンバです。好きな人が多くて、ご飯も具も錦糸卵もすぐになくなってしまいます。しかし、給食のビビンバを見ると、少し不思議に思うことがあります。僕の母はビビンバが好きでよく食べているのですが、給食のビビンバの具と母の食べるビビンバの具は違うのです。母が食べているビビンバはにんじんやほうれん草など色とりどりですが給食のビビンバは茶色の具と黄色の卵と白色のご飯というシンプルな色合いになっています。これは昔からこうだったのかな？そうではないのかなというぎもんをいだきつつもおいしく食べています。おかげでこの6年最も忘れられない給食といえます。

ふたつめはカレーです。ひとえにカレーといつて

も、ここまで給食にいろいろなカレーが出ました。例えば6年生1学期の最後のほうに出た「夏野菜のカレー」です。かぼちややなすがカレーにとけていてもおいしかったです。僕はかぼちやがきらいなのでおどろきました。他のカレーにはめんをカレーにつけて食べるカレーめんやナンをつけたりちぎって入れたりするナンカレーもありました。僕は大豆や枝豆など豆類が得意ではありませんが、カレーに入っていれば気にせず食べられます。給食を通してきらいなものも食べられるようになってきました。

僕達6年1組は夏休み前に道徳の授業で、いただきますとありがとうという言葉について考えました。いただきますは魚や牛など生き物の命と体をもらいますという意味で、ありがとうは相手に感謝するだけでなくその人を生んだ親、先祖に感謝を伝えることだと思います。卒業まで残り半年、いただきますとありがとうを大切にしていきたいです。